

(件 名) 志布志港旅客船埠頭の整備拡充について

(陳情の要旨)

日頃は、志布志港の発展のために、格別のご理解とご支援を賜り、厚く感謝申し上げます。

志布志港は、国際バルク戦略港湾にも指定されており、我が国の大消費市場や主要な工業地帯と海上輸送で直結されており、東南アジア等と最短距離にあるなど、位置的に優れた条件を備えています。また、背後圏に我が国有数の畜産地域である鹿児島県東部地域および宮崎県南部地域を抱え、当地域の産業に必要な不可欠なインフラとなっています。

我が国の港湾観光行政に目を向けますと主要政策の一つにクルーズ船の受入拡充があります。世界的なクルーズ人口の増加に伴い、2015年に我が国へクルーズ船で入港した外国人旅客数は、前年比2.7倍の111.6万人に達しました。クルーズ船の我が国港湾への寄港回数は1,400回を超え、特に10万トン以上(2千人から4千人超乗り)の大型クルーズ船の寄港は前年比2倍の304回へ増加しています。

鹿児島県では、2015年の外国船社クルーズ船の鹿児島港寄港回数は、全国第7位の53回に上り、訪日外国人入込客の観光消費額は291億円に上りました。2016年も118回の寄港が予定されており、鹿児島県とその周辺地域が持つ魅力ある観光資源が訪日外国人にとって高く評価されていることを示しています。

しかしながら、鹿児島港寄港に経済効果のほとんどは鹿児島市内を中心にした薩摩半島に限定されており、大隅半島は皆無に近いものがあります。

大隅唯一の志布志港旅客船埠頭は、岸壁水深が-7.5mであり10万トンクラスのクルーズ船が一般的に必要なとする岸壁水深-10m(10万トン超のクルーズ船では-12m)に満たないことから、大型クルーズ船の寄港が不可能となっています。クルーズ需要に対応した観光振興による地域の活性化および活力維持に資するため、時代の変化に応じた港湾基盤の整備拡充が必要になってきております。

当地域は、日南海岸国定公園や霧島ジオパークエリアを始めとした豊かな自然環境や景勝地、大慈寺や弥五郎どん祭り等の有形無形の文化遺産、内之浦宇宙空間観測所や鹿屋航空基地史料館等の観光学習施設、ブランド牛や鰻等の安全安心かつ特色ある第一次産業群といった観光資源を豊富に有しています。さらに今後は周辺道路の整備により、志布志港を起点とした鹿児島県東部地域および宮崎県南部地域へのアクセス向上が期待されます。

つきましては、大隅半島を中心とする鹿児島県東部地域、宮崎県南部地域の活性化発展のために、大型クルーズ船に対応した志布志港旅客船埠頭の整備拡充および必要な施策の積極的な推進に、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

(件名) 鹿児島県総合体育館等の建設に関する陳情書

(陳情の要旨)

私ども県屋内スポーツ競技団体は、平成32年の鹿児島で開催される国民体育大会や全国障害者スポーツ大会に向け、平成23年3月に「総合体育館等整備基本構想」に基づき、これまで新総合体育館等の必要性を県当局、県議会、さらには県民の方々に訴えてきました。

その後、三反園知事が就任され1年が経過しました。新総合体育館等建設の問題は、現在、大規模スポーツ施設のあり方を検討する委員会が設置され、本年6月第1回検討委員会が開催されました。

報道によりますと、会に先立ち三反園知事からは、新総合体育館等を優先するよう要請があったとのことでした。また、委員からは新総合体育館等の整備に前向きな発言が多かったとのことでもあります。

検討委員会は、来年2月を目途に提言をまとめるとのことではありますが、提言には建設場所や完成時期については含まないとのことでもあります。

今回、検討委員会で前向きな発言が相次いだと言うことは、私ども県屋内スポーツ競技団体としましては、ようやく明るい兆しが見えてきたと嬉しく思います。

しかしながら、肝心の建設場所は新総合体育館等の規模や機能とも大きく関連してくるため、今後、最も重要な課題であります。

現在、本県は国民体育大会・全国障害者スポーツ大会を控え、県当局をはじめ各市町村、競技団体等大会の成功に向け懸命に取り組んでいます。本県にとってスポーツの一大イベントを一過性のものに終わらせないためにも、また、大きなスポーツイベントを契機として新県総合体育館等の整備を行うことは、本県スポーツ界の将来を見据えた場合絶好の機会であり必要不可欠なものと考えます。

私ども県屋内スポーツ競技団体は、来々を担う青少年や県民の方々に、日本や世界のトップアスリートの演技や競技を身近で観戦していただき、感動や夢を届けられる競技スポーツ、また、県民の方々の生涯スポーツ・健康づくり・文化の拠点となる新総合体育館等をできるだけ早く建設されることを県屋内スポーツ競技団体の総意として陳情いたします。

(陳情事項)

- 総合体育館等の規模について  
総合体育館等整備基本構想で示された規模を是非確保していただきたい。  
(メインアリーナ棟、サブアリーナ棟、武道場棟)  
(理由)
- ・ メインアリーナは、全国大会、国際大会に対応できる規模を望む
  - ・ サブアリーナについては、全国・国際大会等を開催する場合は、ウォーミングアップや選手のコンディション調整のために、メイン会場に隣接したサブアリーナがあることを望む
  - ・ 武道場棟については、全国大会、国際大会に対応できる規模を望む
  - ・ 付帯施設も全国大会、国際大会に対応できる規模とユニバーサルデザインに配慮した施設を望む

○ 建設地について

鹿児島市内に設置していただきたい。

(理由)

- ・ 全国大会や国際大会等を開催する場合、選手、役員、観客等の宿泊や交通アクセスを考えると鹿児島市が最適である。
- ・ 大規模な大会では、近隣に主会場と同等規模の会場が必要、また、練習会場も近隣に必要なため、鹿児島市が最適である。
- ・ 県小学・県中学・県高校大会等では、離島からの参加も多く、物理的・経済的に考えた場合鹿児島市が最適である。また、奄美群島市町村長会、種子島屋久島振興協議会からも要請が出ている。
- ・ 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会終了後のスポーツ振興を考えた場合、総合的に考え鹿児島市が最適である。

○ 建設完成年度について

国民体育大会・全国障害者スポーツ大会までに建設を希望していたが、現状を考えると物理的に厳しいため、できるだけ早期に建設していただきたい。

(件 名) 「核のゴミ最終処分場」の受け入れ拒否および放射性物質等受け入れ拒否に関する条例制定を求める陳情書

(陳情の要旨)

2017年7月28日、最終処分関係閣僚会議の確認を踏まえ、経済産業省は、高レベル放射性廃棄物最終処分場の選定に向けた「科学的特性マップ」を公表しました。全国を4色4段階に区分し、鹿児島県内43市町村のうち36市町村が最適地とされ、そこに貴自治体も含まれています。

過去に高レベル放射性廃棄物の中間貯蔵施設や最終処分場誘致の動きがあった西之表市と南大隅町、中種子町、十島村、宇検村などは、放射性核廃棄物の受け入れや持ち込みを拒否する条例を制定しています。

そこで、放射線による被害から県民の生命と生活を守る為に下記事項を陳情します。

記

- ① 「核のゴミ最終処分場」の受け入れ拒否および放射性物質等受け入れ拒否に関する条例を早急に鹿児島県で制定すること

以上の事につきまして、趣旨に御賛同下さいますようお願い致します。